





## 緒 言

福井縣統計書ハ縣下行政其ノ他各般ノ統計ヲ蒐集シ、既往現在ノ狀勢ヲ大觀セムカ爲編纂セル所ニシテ毎年之ヲ刊行シ、今ヤ昭和四年ノ統計書ヲ出スニ至レリ。本書編ヲ分ツコト四、其ノ一ヲ土地戸口等、其ノ二ヲ學事、其ノ三ヲ産業其ノ四ヲ警察衛生工場等トス。

各編收録スル所主トシテ市町村、學校ノ報告及廳内ノ調査ヨリ之ヲ得、又往々關係官公署會社等ノ供給ニ求メタルモノアリ。蓋シ學術ノ進歩世運ノ推移ニ因リ統計ノ用漸ク多キヲ加フ故ニ材料益々正確調査愈精密ヲ期セサルヘカラス。之ヲ以テ常ニ意ヲ注キ又新ニ收載シ或ハ表象方法ヲ更メタルモノ鮮シトセス。然リト雖尙未タ遺憾ナキヲ得ス。此等ハ漸ヲ以テ改善シ其ノ需要ニ適應セシムル所アラムトス。

昭和六年三月

福井縣知事官房

# 昭和四年福井縣統計書 第一編

## 凡 例

本編ハ昭和四年又ハ昭和四年度ノ事項ヲ掲載シタルモノナリ、然レトモ其ノ以後ノ事項ニシテ調査ヲ了ヘタルモノハ之ヲ掲載シ、又已ムヲ得サルモノハ昭和三年若ハ昭和三年度以前ノモノヲ掲ゲタルモノアリ。

編中何年度ト記スルモノハ其ノ年四月一日ヨリ翌年三月三十一日ニ至ル一箇年度、何年末ト記スルモノハ其年十二月三十一日現在、何年度末ト記スルモノハ翌年三月三十一日現在、何年ト記スルモノハ其ノ年一月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル一曆年間、何日ト記スルモノハ其ノ日現在ノ意ナリ。

前數年ノ事項ヲ列載シタルモノハ本表ノ數字ト其ノ質ヲ同フシ、即チ本表現在數ナルトキハ比較數又現在數一年間若ハ一年度間ノ數ナルトキハ比較數又一年間若ハ一年度間ノ數ナリ。

數位ハ千位百萬位ニ「,」小數アルモノハ單位ニ「.」ヲ附シ不詳ノモノハ「?」一位ニ滿サルモノハ「0」全ク無キモノハ「-」填入セリ。

金錢ニ關スルモノハ概ネ四捨五入ノ法ヲ用ヒテ圓位ニ止メタリ、又往々外國ノ度量衡ヲ用ヒタルモノアリ、彼我ノ對照ヲ示セハ左ノ如シ。

哩 (マイル) 十四町四十五間八寸三分五厘

噸 (ト ン) 二百七十貫九百五十匁四

鎰 (チエーン) 十一間三寸八分三厘四

耗 (ミリメートル) 三厘三毛

米突 (メートル) 三尺三寸

瓦 (グラム) 二匁六分七厘

## 昭和四年 福井縣統計書目次

## 第一編 土地及戶口等

總 說	1	36 年齡階級別死亡(現住人)	17
土 地		37 月別出生並死産(現住人)	17
1 土地總段別	4	38 原因別死亡中分類(現住人)	18
2 官有地	4	39 年齡及身分別婚姻	19
3 民有有租地段別及地價	4	40 夫妻相互ノ年齡別婚姻	19
4 民有免租及無租地段別	6	41 夫妻相互ノ年齡別離婚	20
5 民有免租地年期地種別	6	42 北海道移住者調	20
氣 象		交通及通信	
6 測候所	7	43 官設鐵道線路及敷地	21
7 氣壓氣溫及濕度	7	44 官設鐵道運輸	22
8 平均氣壓	7	45 私設鐵道	23
9 平均氣溫度	8	46 私設鐵道運輸	23
10 平均濕度	8	47 郵 便	26
11 平均雲量	8	48 電 報	26
12 降水日數及降水量	9	49 電信線路里程及電柱	27
13 降雪日數及期節	9	50 電話加入者數	27
14 快晴日數	9	51 市内電話線路里程及電柱	37
15 曇天日數	10	52 市外電話線路里程及電柱	38
16 暴風日數	10	53 電話料收入	38
17 結霜日數	10	54 瓦 斯	38
18 最多風方位	10	55 瓦斯製造高及消費	38
19 風ノ速度	11	56 瓦斯火口數及料金	29
20 風ノ平均速度	11	57 諸 車	29
21 沿海及河川流域雨量	12	58 海岸延長及港灣	30
22 地方暴風雨信號所	12	59 港灣ノ狀況	30
23 暴風雨標位置	12	60 燈 臺	30
24 測候用無線電信機	13	61 浮 標	30
25 地震計	13	62 船 舶	31
26 地震計ニ現ハレタル震動	13	63 港灣入港船舶ノ隻數及噸數	31
戶 口		64 敦賀浦觀斯德間汽船乗降客人員	32
27 世帯及人口ノ一	13	土 功	
28 世帯及人口ノ二(種類別)	14	65 水害日數	32
29 配偶關係別人口(郡市別)	14	66 水害損失價額	32
30 階級年齡及配偶關係別人口(總數)	14	67 工事別土木費決算	33
31 構成人口別普通世帯(郡市別)	15	68 工種別土木費決算	33
32 推計人口	16	社寺及宗教	
33 現在人口階級ニ別テタル市町村數及其人口	16	69 神社及神職	33
34 本籍人口及現在人口並現住戶數	16	70 寺院及僧侶	34
35 人口動態總覽(現住地別)	17	71 各宗教派別寺院	34

教育慈惠及褒賞

7 2 行旅病人.....35  
 7 3 行旅死亡人.....35  
 7 4 濟貧恤窮.....35  
 7 5 感化院ノ一(組織、所在、職員、經費等).....36  
 7 6 感化院ノ二(入院退院者年末現在).....36  
 7 7 感化院ノ三(身分年齡及保護者關係).....36  
 7 8 感化院ノ四(改檢退院者ノ在院期間及方途).....37  
 7 9 救濟事業ノ一(育兒).....37  
 8 0 救濟事業ノ二(幼兒保育).....37  
 8 1 救濟事業ノ三(窮民救助).....38  
 8 2 救濟事業ノ四(職業紹介).....38  
 8 3 救濟事業ノ五(免囚保護).....38  
 8 4 救濟事業ノ六(宿泊救護).....39  
 8 5 軍事救護.....39  
 8 6 恩賜財團濟生會.....39  
 8 7 篤行奇特者.....30

兵 事

8 8 壯丁教育程度種別.....40  
 8 9 壯丁體格檢査.....40  
 9 0 壯丁身長及體重最高最低.....41  
 9 1 海軍志願兵.....41  
 9 2 日本赤十字社員及年釐金.....42  
 9 3 愛國婦人會.....42

議 會

9 4 貴族院多額納稅議員互選者.....43  
 9 5 衆議院議員選舉.....45  
 9 6 縣會議員選舉.....46  
 9 7 縣會及縣參事會.....46  
 9 8 市會議員選舉.....46  
 9 9 市會及市參事會.....46  
 1 0 0 町村會.....47

官 公 吏

1 0 1 縣廳各部分課.....47  
 1 0 2 休職官吏員職員.....47  
 1 0 3 縣職員(課別).....47  
 1 0 4 市吏員.....49  
 1 0 5 町村吏員.....49

財 政

1 0 6 縣郡市町村水利土功組合歳入出.....50  
 1 0 7 直接稅負擔(決算).....51  
 1 0 8 國 稅.....51  
 1 0 9 地 租.....52  
 1 1 0 所得稅.....53

1 1 1 家督相續稅.....56  
 1 1 2 遺產相續稅.....58  
 1 1 3 醬油稅.....58  
 1 1 4 第三種所得稅決定額種別.....60  
 1 1 5 織物消費稅.....60  
 1 1 6 營業收益稅.....62  
 1 1 7 酒造稅.....64  
 1 1 8 國稅滯納人員及金額.....64  
 1 1 9 租稅外國車收入.....65  
 1 2 0 國庫支出縣經費.....66  
 1 2 1 縣歳入.....68  
 1 2 2 縣歳出.....68  
 1 2 3 縣 稅.....70  
 1 2 4 縣稅滯納處分.....71  
 1 2 5 特別會計ニ屬スル縣歳入歳出.....72  
 1 2 6 福井市歳入.....72  
 1 2 7 福井市歳出.....73  
 1 2 8 福井市稅.....74  
 1 2 9 福井市瓦斯事業費歳入.....74  
 1 3 0 福井市瓦斯事業費歳出.....74  
 1 3 1 福井市水道布設費歳入.....75  
 1 3 2 福井市水道布設費歳出.....76  
 1 3 3 町村歳入.....76  
 1 3 4 町村歳出.....78  
 1 3 5 町村稅.....80  
 1 3 6 市町村稅滯納處分.....80  
 1 3 7 普通水利組合歳入.....82  
 1 3 8 普通水利組合歳出.....82  
 1 3 9 水害豫防組合歳入.....83  
 1 4 0 水害豫防組合歳出.....83  
 1 4 1 縣有財產ノ一.....84  
 1 4 2 縣有財產ノ二.....85  
 1 4 3 縣有財產ノ三.....85  
 1 4 4 福井市基本財產.....85  
 1 4 5 町村基本財產.....86

其 他

1 4 6 令達發布件數.....86  
 1 4 7 收受發送文書件數.....86

# 總 説

## 位 置

本縣ハ北陸道ノ西南部ニ位シ南ハ北緯三十五度十八分四十五秒ニ始マレ、北ハ北緯三十九度十六分三十八秒ニ終リ、東ハ東經百三十六度四十六分三十分ニ始マリ、西ハ東經百三十五度二十五分十七秒ニ終ル。

北ハ石川縣ニ接シ東南ハ岐阜縣ニ接シ、西南ハ京都府、滋賀縣ニ連リ、北ハ日本海ニ面シ航路ニ晝夜ヲ隔テテ遠ク浦鹽ト相對ス。

## 地 勢

越前ハ四面山ヲ圍ラシ中央ノ一大盆地ヲ所謂越前平野トナス、東北加賀白山ヨリ起レル山脈ハ別山ニ至リ、岐レテ二脈トナリ、重疊起伏シテ國境ヲ限ル。一ハ國ノ東南ニ走り、大日、油坂、蠅船子、荒島、冠嶽ノ諸峰トナリテ極メテ急峻ナリ。一ハ國ノ中央ヲ稍低ク走リテ經ケ嶽、兜山、鷲ヶ嶽、淨法寺、丈壁、劍ヶ嶽等ノ諸山トナル又國ノ四方ヲ繞ルー脈アリテ國見、鷹巢、越知ノ諸山トナリ、山嶽日本海ニ迫リテ平地ヲ見ズ。

河川ハ概ネ東南ノ山間ヨリ發シ九頭龍、足羽、日野ノ三川トナリテ西北シテ三國港ニ入ル、其流域灌溉ニ適シ土地肥沃ニシテ五穀豐穰ス。

若狭ハ越前ト其ノ趣ヲ異ニシ、南方ニ三十三間、多太、後瀬、青葉等ノ峯巒國境ヲ限リ北方ニ傾斜シテ海ニ至ル、土地狭ク水田ニ乏シク遂ニ發達ノ發達ヲ來スニ至レリ。

## 廣 袤

總面積二百六十方里餘ヲ有シ、廣袤全國四十六府縣中第三十八位ニシテ滋賀縣(琵琶湖ヲ含ム)ニ比シ狭ク埼玉縣ニ比シ稍大ナリ、然レドモ本縣ハ山地三分ノニヲ占ムレテ以テ、廣袤ノ割合ニ利用面積多シ。

## 土 地

本縣ノ土地總段別ハ二十三萬五千五百八十町三段、內國有地五千四百三十四町三段、民有地二十三萬百四十六町ナリ。民有有租地ハ十八萬二千九町六段ニシテ民有地ノ七割九分ニ當リ、免租及年期中ハ四萬八千三百三十六町四段ナリ。國有地ハ山林四千七百六十二町六段、官公署其ノ他ノ敷地六百七十一町七段ナリ。免租地ハ保安林四萬五千九百九十七町、社寺地百五十一町五段、官公署及其ノ他ノ敷地百十七町一段、墳墓地百八十二町三段、用惡水路及溜池、非溝等ハ千五十六町九段、其ノ他ノ土地三百七十四町九段等ナリ、年期中ハ田及其ノ他ニ二百五十六町七段歩アリ。

## 氣 象

本縣ハ一方日本海ニ面シ他方山嶽ニヨリ圍レタル地勢ナルヲ以テ其ノ氣候ハ主ニ海上ヨリノ影響ニヨリ左右セラル、傾向ニアリ尙濕度ノ如キニ到ツテハ本邦ノ最タルモノナリ、殊ニ冬季ハ積雪多ク各種産業上ニ影響スル處多シ。

昭和四年十二月中ノ平均濕度ハ八十五度ニシテ 同年中ノ平均ハ八十一度ヲ示シ氣温ノ最高ハ八月ノ三十七度五分、最底ハ一月ノ零下八度〇分トナリ、年中ノ平均溫度十三度六分ヲ示ス、又降水日數ハ一月最モ多クシテ二十六日、三月ハ二十五日、九月ハ二十四日、二月ハ二十三日等ナリ。同年降水日數ハ二百十八日ニシテ雨天ハ殆ソト三分ノニニ當リ、降水量ハ一、二、九、十一月最モ多ク何レモ二百糎以上ニ達シ、一年間ヲ通ズレバ實ニ二千八十糎ヲ算ス。又昭和三年十二月初雪、昭和四年三月二十一日終雪ナルガ故ニ此ノ降雪期間百七日ニ及ビ最深積雪一尺五寸五分ニ達セリ。又昭和四年中ノ快晴日數僅カニ二十三日、曇天二百八日、暴風四日、結霜日數四十五日等ナリ(福井測候所ノ調査ニ依ル)。

## 戶 口

### 世帯及人口

本縣ノ世帯總數ハ十二萬八千三百八、人口ハ六十一萬八千四百一十一人ニシテ一万里ニ付 二千三百七十二人ノ密度トナル。總人口中男ハ三十萬四千五百二十五人、女ハ三十一萬三千六百十六人ニシテ女百人ニ付男九十七人ニ當リ、全國平均女百人ニ付男百一人ニ比シ男ノ割合少キハ 纖維工業地タルノ故ナラン。

世帯總數中普通世帯ハ十二萬七千五百四十一、之ニ屬スル人員ハ六十萬七千二百八人、準世帯ハ七百六十七、之ニ屬スル人員一萬九百三十三人ニシテ普通世帯及同人口ハ總數ノ九割九分ヲ占ム、而シテ一世帯平均人員ハ普通世帯四人八分、準世帯ハ十四人二分五厘、兩者ヲ通シテ四人八分二厘トナル(以上ハ昭和五年國勢調査ノ結果)之ヲ大正十四年ノ國勢調査ノ結果ニ比スレバ 普通世帯ニ於テ二千五百四十二ヲ増シ、準世帯ニ於テ三十五ヲ減シ、人口ニ於テ二萬二百四十二人ヲ増加セリ。

### 人口動態

昭和四年中ノ婚姻ハ五千七百六十七人、離婚六百五十四人ニシテ出生ハ男一萬五百七十九人、女一萬二百五人、計二萬七千八百八十四人ニ達シ、男ハ女ヨリモ三百七十四人多ク生産シタリ。同年中死亡セルモノハ男七千七百六十六人、女七千八百九十四人、計一萬五千六百六十六人ナルガ故ニ出生、死亡ノ差ハ五千八百八十四人ノ自然増加トナリ、前年ニ比シ千三百人ノ減少ヲ示ス。尙最近十ヶ年間ニ於ケル平均ハ年六千四百人ノ増加ヲ示セリ。

原因別死亡

昭和四年中ニ於ケル死亡原因別ヲ示セバ 死亡者千人中其ノ最高率ハ下痢及肺炎ノ百七十一人七分ニシテ、之ニ亞クハ其他ノ疾患九十八人三分、肺炎及氣管支肺炎七十九人七分、老衰七十九人九分、畸形先天性弱質及乳兒ニ固有ノ疾患七十一人五分、肺結核六十三人六分等ナリ。

交 通

道 路

交通ノ狀況ハ國道、府縣道ノ總延長百八十萬三千九百五十二米餘ニシテ面積ニ比シ少カラザルモ 山地ノ割合ニ多キ關係上其一部或ハ險路峻坂トナリ或ハ幅員狹少トナレルヲ以テ毎年之ガ改良ニ比較的多額ノ經費ヲ投シツ、アリ、殊ニ昭和三年度ニアリテハ 縣下各地ニ産業道路開鑿ヲ計劃セルモ昭和四年度ニ於テ 縣財政緊縮ノ爲繼續年度ヲ二ヶ年延長シ、其ノ一部ヲ後年度ニ繰延ベ之ガ總工事費ヲ五百五十四萬六千三百八十圓ト變更シ目下施行中ナリ。

鐵 道

鐵道ハ總延長百八十八哩餘ニ達シ北陸本線、小濱線、三國線ノ外私設鐵道七線アリ。更ニ計劃中ニ屬スル越美線ノ開通ヲ見バ交通運輸上裨益スル所多カラン。

諸 車

諸車ハ昭和四年末現在ニ於テ馬車千一百一臺、牛車百二十七臺、荷車二萬七千九百六臺、人力車四百四十四臺、自轉車四萬六千七百一臺、自動車四百五十三臺、其ノ他ノ車千九百三十三臺、總計七萬八千七百十九臺ニ達ス。而シテ此等ノ内自轉車ハ急進的ニ自動車ハ漸進的ニ増加シ、人力車ハ著シク衰微ノ傾向ヲ示セリ。

社 寺 及 宗 教

神 社 及 神 職

昭和五年末本縣ノ神社總數ハ千六百八十四社、神職百七十九人アリ内、官幣大社、官幣中社、別格官幣社各一、國幣中社二、國幣小社一、縣社二四、郷社四八、村社千二百七十一、無格社三百三十五等ナリ。

寺 院 及 僧 侶

本縣ノ宗教ハ佛教最モ盛ニシテ昭和五年末ニ於ケル寺院總數實ニ千六百五十五、僧侶千六百人ニ達シ、寺院一ニ付世帯數僅カニ七十七ニ當ル。寺院ヲ宗派別ニ觀ルトキハ眞宗ノ八百七十四最モ多ク縣下寺院總數ノ半ヲ占メ、之ニ亞クハ曹洞宗二百七十二、日蓮宗百三十三、天臺宗百十一、淨土宗九十八、臨濟宗八十三、眞言宗六十二、時宗二十、黃檗宗二等ナリ。

兵 事

昭和五年ノ壯丁体格検査人員ハ總數六千五百二十九人内甲種千七百一人ニシテ總數ノ二割六分ニ當リ、第一乙種五百三人(七分七厘)、第二乙種千五百二十人(二割三分)トナリ

又丙種二千四百二十一人、丁種三百七十八人、戊種三人併セテ四割三分ニ當ル、之ヲ前年ニ比シ甲種及第一乙種ニ於テハ稍々近似セルモ、第二乙種及丙種ニ於テ幾分増加セリ。教育程度ニ於テハ、高等學校卒業又ハ之ト同等以上ノ者九十人、中學校卒業又ハ之ト同等以上ノ者六百八十九人、高等小學校卒業又ハ之ト同等以上ノ者三千七百五十三人、尋常小學校卒業又ハ之ト同等以上ノ者千七百三十四人、尋常小學校未卒業及不就學者二百六十九人ニシテ、之ヲ前年ニ比シ尋常小學校未卒業及不就學者ニ在リテハ 漸次其ノ數ヲ減シツ、アリ。身長ハ最高一、八六〇米、最低一、三五一米、体重ハ最重八一、七〇〇斤、最輕三一、二五〇斤ナリトス。

官 公 吏

縣 職 員

昭和四年九月一日現在ノ本縣ノ職員ハ 千四百十八人ニシテ其ノ俸給年額八十六萬二千四百五十九圓トナル、内勅任一人、奏任十八人、同待遇四十三人、列任百五十七人、同待遇六百六十六人、縣吏員百五十五人、雇員三百五十七人、嘱託二十一人等ナリ。

市 吏 員

昭和五年末現在ニ於テ市長、助役、收入役各一人、主事三人、技師四人、書記五十三人、技手十八人、事務員三十三人、其ノ他二人、合計百十六人ニシテ之ノ俸給年額八萬五千五百八圓トナル。

町 村 吏 員

昭和五年末現在ニ於テ町村長百七十人、助役百六十九人、收入役百六十人、區長二千六十二人、同代理者二千九人、書記六百八十四人、事務員六十五人、技師員二十六人、常設委員五百九十二人、其ノ他三人、合計五千九百四十人トナリ内名譽職ヲ除ク有給吏員ノ俸給年額ハ 三十八萬六千二百七圓トナル。

財 政

縣

縣財政ハ明治十四年即チ置縣當時ニ有ツテハ 僅カニ二十八萬三千餘圓ニ過ギザリシガ、日清戰役以來事業ノ勃興ト法令ノ結果ニ依ル等漸ク經濟ノ膨脹ヲ來シ、明治二十九年度ニ至リテ約三倍ニ上リ、加フルニ水害復舊工事ニ依ル縣債償還及九頭龍川改修事業ニ對スル支出等ニ依リ 年々縣費ヲ増嵩シタリ。茲ニ於テ縣民ノ負擔輕減ヲ圖ル必要ニ迫リ、明治三十五年度及同三十七年度ノ兩回ニ亘リ 極力財政ノ整理ヲ斷行シタルモ、其ノ後戰後ノ經濟ト時運ノ進歩ニ伴ヒ 益財政ノ膨脹ヲ來スニ至レリ、加フルニ其ノ後郡制ノ廢止ニ依リ 自然縣事業ノ増加ヲ來シ縣費ハ愈々膨脹シタルヲ以テ 大正十二年政府ノ方針ヲ依テ大整理方針ヲ樹テ事業費、事務費ヲ通ツテ極力整理緊縮ヲ取行シ 爾來其ノ方針ヲ以テ進ミタルモ法令ニ依ルモ、其他縣民ノ福利ノ増進上已ムテ得ザルモノ等アルニ依リ昭和四年度決算ハ 尙五百四十八萬六千二百二十六圓ニ上ルニ至レリ。之ヲ前年度決算ニ比スレバ



十萬二千八百十二圓ヲ減シタルモ、大正九年度決算ヨリ百七十萬七千五百四十一圓ヲ増加シタリ。

市 町 村

市町村財政ノ狀況ヲ觀ルニ昭和五年度ニ於テ市費六十二萬三千二百四十圓、町村費五百四十六萬一千二百四十圓ニシテ之ヲ市町村制實施ノ翌年タル明治二十三年度ニ比スレバ市町村ヲ通ジテ實ニ二十倍餘ニ達セリ、縣ハ不斷銳意緊縮方針ヲ以テ之ヲ卒フル所アリシモ 社會ノ進展ニ伴ヒ教育、土木、産業其ノ他各般ノ施設ニ依リ自然膨脹ヲ餘儀ナクセシメタルニ外ナラズ。

賦 稅 負 擔

昭和四年度ノ本縣ニ於ケル租稅負擔ノ狀況ヲ見ルニ 直接國稅總額二百一萬六千七百七十三圓、縣稅總額三百二十三萬五千六百七十二圓、市町村稅總額三百八十七萬千六百八十四圓ニシテ之ヲ一世當當ニ觀ルニ直接國稅十六圓三錢、縣稅二十五圓七十三錢、市町村稅三十圓七十八錢トナル。

港 灣

(敦 賀 港)

港 灣 ノ 修 築

本港ハ大正二年港灣改良工事竣成後 更ニ大正十一年度ヨリ同十八年度ニ至リ 八ヶ年ノ繼續事業ニテ 港灣修築計劃成リ 國費參百四拾萬圓ヲ以テ 大正十一年九月十四日 之レガ起工式ヲ舉行セリ、 然レニ大正十三年政府ノ都合ニヨリ一ヶ年繰延昭和五年度ニ於テ竣工ノ豫定ニシテ 目下工事中ナリ而シテ本計劃ハ 新ニ延長三百二十三間ノ繫船岸壁ト約九十間ノ護岸トヲ得レモノニシテ 之ガ竣工ノ號ニハ一ヶ年約五十萬噸ノ貨物ヲ取扱ヒ得ベシ。

水 深 ノ 變 化

港内廣闊ニシテ 水極メテ深ク 暗礁砂洲等障害物ニ乏シク 隨ツテ大船巨艦ト雖モ運航自在且ツ繁榮安全ナリ。 船舶ノ集合地點ハ陸岸ヨリ二百米乃至二百七十米突ニシテ 潮位及潮流ハ零位ヨリ二尺迄ヲ最高トス。

港 灣 ノ 消 長

敦賀港ハ古來江州濃尾並ニ近畿地方トノ水陸連絡ノ要港タルノミナラズ 北海道ニ對スル輸出入貨物ノ集散港トシテ夙ニ世ニ知ラレタリ。 且ツ地理的關係上對外的ニハ遠ク神功皇后三韓出帥ノ當時其ノ策源地タリシ所ナリ、 其ノ後或ハ外國使臣來朝ノ應接地トナリ 又ハ歐軍事上ノ中心トナリシ歴史ヲ有ス。 故ニ維新以後政府ハ本港ノ開發ニ意ヲ用ヒ 明治十四年灣口ニ燈臺ヲ新設シテ航路ノ安全ヲ計リ、 又明治十七年敦賀、長濱間ノ鐵道ヲ布設シテ近畿地方トノ交通ヲ便ナラシメ續テ 明治二十九年十月當港ヲ特別輸出港ト指定シ同三十二年七月開港令ノ公布セラル、ヤ 當港ヲモ亦其ノ一ニ加ヘタリ。 其ノ後西伯利亞鐵道ノ全通スルニ及ビテ 歐人ノ東洋ニ來ラムトスルモノ多クハ 此ノ便ニ依レテ以テ 旅客ノ往來日ヲ追フテ頻繁トナリ 貨物集散モ隨テ増加スルニ至レリ。 爾來政府ハ本港修築ノ必要ヲ感ズルニ至リ 第二

十五議會ノ協賛ヲ經テ 明治四十二年以降四ヶ年ノ繼續事業トシテ工費八拾萬圓ヲ以テ 第一期修築工事ヲ起シ該工事ハ大正二年度ニ於テ竣工セシモ間モナク 歐洲戰爭勃發シタル結果本港ハ 我國ニ於ケル軍事上將又經濟上愈々重要ノ地位ヲ占ムルニ至リシノミナラズ 貨物増増シ第一期ノ修築工事ノミニテハ設備ノ不足ヲ告ケルニ至レルヲ以テ 更ニ第二期修築工事ノ必要ヲ認メ 第四十五議會ノ協賛ヲ經テ更ニ大正十一年度ヨリ之レガ工事ヲ起スニ至レルモ 大正十二年九月一日ノ關東地方震災ノタメ 八ヶ年繼續事業チ一ヶ年延期セラル、ノ止ムナキニ至レリ。 歐州大戰中非常ナル發展ヲ遂ケタル我對外貿易モ戰後ノ財界變動ニ因リ 漸次衰頽ヲ來シ其後甚シキ激減ヲ示スニ至レリ。 而シテ昭和四年中當港ヨリノ輸出ハ五萬三千九百三十八噸、 價額二百五十六萬七千三百三十九圓、 輸入ハ二十四萬八千六百九十一噸之ノ價額千六百七十六萬四千八百五十四圓ニシテ 輸出ノ重ナルモノハ雜貨及繩纜類トス、 雜貨ハ鐵道便ニヨリ京阪地方ヨリ輸送シ來リ 北海道、北鮮(元山、城津、清津方面)、 露領亞細亞及支那方面ニ、 繩纜類ハ兵庫、滋賀、三重ノ各縣ヨリ産スルモノ及郡内産ヲ併セ北海道方面ニ輸出セラル。 輸入ノ重ナルモノ内石炭ハ北海道及九州ヨリ輸入シ多クハ 鐵道用炭トシテ 其ノ他ハ本縣下及滋賀縣下ノ工業用炭トシテ 消化スルモノトス。 尙豆粕、雜穀、鹽乾魚、魚肥類ハ北海道、朝鮮方面ヨリ縣内ハ勿論近江、京阪神及名古屋中央線一圓ニ輸出セラル、狀況ニアリ。